

美は甦る 検証・二枚の西周像 にし あまね

—高橋由一から松本竣介まで—

Verification of the Two Portrait of NISHI Amane

—From TAKAHASHI Yuichi to MATSUMOTO Shunsuke



「哲学」という訳語を生み出し、近代日本の礎を築いた思想家・西周の二枚の肖像画を初公開。

会期：2013年1月26日（土）～3月24日（日）

会場：神奈川県立近代美術館 葉山

■ 開館時間：午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで） ■ 休館日：月曜日（ただし2月11日は開館）

■ 観覧料：一般900円（800円）、20歳未満・学生750円（650円）、65歳以上450円、高校生100円

※（ ）内は20名以上の団体料金です。

※中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方は無料です。その他の割引につきましてはお問い合わせください。

※ファミリー・コミュニケーションの日：毎月第一日曜日（今回は2月3日、3月3日）は、18歳未満のお子様連れのご家族は優待料金（65歳以上の方を除く）でご観覧いただけます。

■ 主催：神奈川県立近代美術館

■ 調査研究助成：公益財団法人 ポーラ美術振興財団

■ 同時開催：「東日本大震災による被災美術品修復報告（石巻文化センター所蔵作品）」

協力：全国美術館会議



1



2

この展覧会は、日本洋画の父・高橋由一によるものと考えられる《西周肖像画》が島根県津和野町にある太鼓谷稲成神社から発見され、すでに知られている津和野町立津和野郷土館所蔵の高橋由一作《西周像》と比較検討するため、当館学芸スタッフが中心となって修復調査研究チームが組まれたことから生まれた企画です。

今回、二点の西周像が約二年におよぶ修復調査を経て、見事に新しい生命が与えられたことを記念し、発表の場として展覧会を開催することにいたしました。

本展覧会は、津和野出身である明治の思想家・西周を描いた二点の肖像画に関する研究成果を核としながら、これら二点を高橋由一に描かせた、美学美術史、写真術に精通した津和野藩田藩主・亀井茲明こゑあきにも注目して、二点が制作された謎に迫るとともに、近年当館で修復された岸田劉生、藤田嗣治、松本竣介などを中心に、明治期から昭和前期までの約60名の画家による油彩画、水彩画約150点を紹介します。保存・修復という作品の知られざる部分に光をあてることによって、近代日本美術の問題点をさぐり、新たな発見を浮かび上がらせようとする展覧会です。



3



4

画像キャプション

- (表) 高橋由一《西周肖像画》油彩、カンヴァス 1893年頃 太鼓谷稲成神社蔵
 1 高橋由一《江の島図》油彩、カンヴァス 1876-77年 神奈川県立近代美術館蔵
 2 関根正二《少年》油彩、カンヴァス 1918年頃 神奈川県立近代美術館 寄託
 3 岸田劉生《童女図(麗子立像)》油彩、カンヴァス 1923年 神奈川県立近代美術館蔵
 4 藤田嗣治《横たわる裸婦》油彩、カンヴァス 1926年 神奈川県立近代美術館蔵
 ©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2012 E0207
 5 松本竣介《立てる像》油彩、カンヴァス 1942年 神奈川県立近代美術館蔵

■ 関連プログラム

・ 担当学芸員によるギャラリートーク

2月3日(日)、3月10日(日)、3月17日(日)
 各回午後2時から
 申込不要、無料(観覧券が必要です)

・ 県立機関活用講座(全5回)「美は甦る—修復の現在」

- 第1回 1月26日(土)「高橋由一」(仮題)
 青木茂氏(美術史家、文星芸術大学特任教授、明治美術学会会長)
 第2回 2月9日(土)「修復から見た明治前期の油絵—高橋由一を中心に—」
 歌田真介氏(修復家、東京芸術大学名誉教授)
 第3回 2月23日(土)「版画・素描の保存修復」
 山領まり氏(絵画修復家)
 第4回 3月2日(土)「彫刻の修復」(仮題)
 藤原徹氏(修復家、東北芸術工科大学教授)
 第5回 3月16日(土)「寺社などの文化財建造物の修復について」(仮題)
 山内章氏(一般社団法人天野山文化遺産研究所 代表理事)

時間：各回 午後2時から4時

会場：神奈川県立近代美術館 葉山 講堂

受講料：各回1,000円 *要申込

